

ウォーキング雑感 (その 7)



(一社)日本機械土工協会
常務理事 保坂 益男

パンダの餌はどこから

暗闇坂をおりて突き当たりの道路を不忍池の方向へ曲がるとすぐに上野動物園の通用門になります。上野の山が平地へ接した境目に道路が作られており、通用門はもちろん山側にあります。

鴟外荘（作家鴟外が何年か居住した跡地にホテル鴟外荘（現在は閉館）がある。）はそのすぐ近くにあり、そこから7～8百メートル進むと不忍池が見えてきます。通用門をすぎて2～3百メートル進むと、動物園の山側からモノレール（今は運行していません。）で道路の上を跨いでいける、不忍池のほとりに作られている鳥類館などの広大な敷地になります。（今は改装中）ここへ動物園関係者が入れる門があり、中に管理事務所や宿舎が建っております。時々この閉まっている門の横の道路に竹（葉）のついた竹を満載した伊豆ナンバーの2トントラックが止まって、門の開くのを待っております。どうやら竹は伊豆半島産で、静岡県伊豆から新鮮な竹を毎日直送しているようです。動物園までの道のりが遠いためでしょう、早く着くことが多く、門が閉まっていて入れないので、こちらの目にとまることとなります。おそらくこの管理事務所では検品されているものと思われます。この監理事務所の敷地内から公道の上を跨いで上野の山側へ通じる陸橋があります。竹は正門や通用門を通らずこの陸橋を通過して山側のパンダ館へ直接納品しているようです。

なお現在（平成3年2月）は不忍池側（弁天堂側）の工事が終わり、新たに上野動物園「不忍門」が完成しているようです。そこで監理事務所前を通る公道の歩道との境には、立派な内部が見えないように工夫（風は通る）した金属で作られた塀も完成しました。その塀のところどころに張り出されている金属板の「表示」が面白い。「歩道の通行の妨げになりますのでこの付近で立ち止まることはご遠慮ください。」

天下の大道（歩道）、歩こうが寝ころがろうが俺の勝手だ、啖呵を切れなくなりました。

※上野動物園モノレール—東京都交通局が運営する上野動物園モノレール（上野懸垂線）が、2019年10月31日（木）の夕方をもって運転を休止。車両（40形）の経年劣化にとまなうもので、この路線は道路混雑が深刻化するなか、「将来の新しい都市交通機関」の実証実験として、1957（昭和32）年12月17日に開業した日本初のモノレールです。鉄道事業法に基づく交通機関として、上野動物園の東園と西園のあいだ0.3kmを結んでいます。

上野動物園余話

当協会で大員表彰、褒章、叙勲を最初に受章した理事は、パンダの餌を供給している静岡県・支部の支部長を務めた近藤憲一氏。平成3年春に勲五等旭日章受章（ご存じのように70歳以上でないと受章できない）。大正生まれで軍隊経験者、受章された夏、軍隊仲間が東北など全国から五名ほど上野に集まりお祝い。当時上野動物園は忍ばず口からも入園でき、高齢者は無料。お昼、無料で入園（私は若く有料）、園内のお店で各々弁当を買って、テント張りの席で食事と懇談をして解散。当時の軍隊仲間の70歳代、「貴様や俺」での懇談、死線をくぐった仲間の集まりの割りにはさっぱりしておりました。

近藤憲一氏は世に言うB級戦犯で、捕虜を数回にわたって殺害したとして、戦争犯罪人の収容施設である巣鴨プリズン（巣鴨拘置所）に、昭和27年まで勾留されていたとのこと。落下傘で降りてきた敵をその場で殺害した容疑。目撃者（軍隊の同僚）がおり死刑の求刑。氏の証言「もし言われるような状況下であれば間違いなく殺害したと思う。しかし覚えがない」。日本側から付いた日本人の弁護士は「事件を認め、減刑を願おう」。連合国側（オーストラリア）



から付いた弁護士は徹底した証拠主義、氏の主張を信用し、事件のあった日の、氏の所属部隊の日記を探し出して、当日氏は出張命令で殺害現場にいなかった。従って覚えがないことが判明した。

昭和20年の終戦から昭和27年まで巣鴨暮らしをさせられ、体制に寄り添う日本人と、自分の職務に忠実な外国人を見る貴重な勉強をさせてもらいました、と語っておりました。

夏は体操 動物園まえ

上野公園は桜で有名ですが、その桜通りの終わりが上野動物園入口と交番に囲まれた大広場。夏はラジオ体操の会場となります。10月から3月までの冬の朝は、冬バージョンとして、東上野から「かっぱ橋本通り」を歩いて浅草寺回りとなり、冬の朝の6時30分過ぎに動物園前を歩くことがないので、年間を通して体操会場になっているかどうかはわかりません。休日の朝にたまたま体操をしている広場を通ると100人近い人々が参加して、ラジオに合わせて体操を行っております。

6時半から始まるNHKラジオ体操の時間に合わせ、この体操に参加している人々にはおそらく知られていないと思います、夏バージョンでこの広場を通る時間は朝5時15～20分ぐらいになります、主催者の一人だと思いますが毎日その時間にはすでにラジオ3台を持ち込み、これをセットして広い広場内のゴミや足元が危ない物を取り除く作業を黙々とやっている人がおります。広場の一面には交番もあり、あのような姿を見たら広場を使用する許可を出さざるを得ないと思います。「まさに縁の下の力持ち」。

平成3年から「開発途上国への建設技術・技能移転」と同業団体との国際交流事業を兼ね、スリランカ国や中国などを対象にして建設研修生を受入れ、会員企業で研修する事業を開始しました。当時の建設省建設経済局から審議官か担当課である建設振興課長をオブザーバーとして参加して戴き、当協会、全鉄筋、日左連、全室協（名古屋地区）で代表団を構成し、中国やベトナム国を訪問しました。中国については毎年1回、研修生を派遣している建設業団体はじめ、中国建設部（日本の建設省）や省政府を訪問し、意見交換をしました。

訪問都市については浙江省（杭州市）、江蘇省（南京市）、上海、陝西省（西安市）、北京、甘肅省（蘭州市）、四川省（成都市）などと多岐にわたり、研修生を受入れと上述関係機関との交流をつづけました。

私はいつも事務局を担当し、訪問先と事前交渉し、代表団を先導する役割を務めました。事務局ですから、毎日訪問を終えた夜、翌日の交通手段の確認や訪問先へのおみやげの準備などをし、朝は出発の1時間以上前にはホテルのカウンターで各自の清算処理や、集合場所でみなさんの来るのを待っています。集合時間の30分以上前から集まってくれる人、決まって5分前に来る人もいます。集合時間に遅れてくるわけではないが、ギリギリで来るとカウンターが混んでいたり、部屋に忘れ物をしたりすると出発時間に影響します。その人は、迷惑を掛けることのないように30分以上も前から気をつけて集まっている人は見えないこととなります。いつも同じ道・行動を取っていると、いつもの風景しか見えない。たまには違った道を歩くとか、違った時間に歩く、と違った風景が見えてくる。視野が拡大する。そうなんだな。

※上野の桜—日本の花見の歴史は長く、古くは『日本後紀』や『源氏物語』『徒然草』などに書き残されています。安土桃山時代には豊臣秀吉が京都、醍醐寺で1000人を越える配下とともに大規模な花見の宴（醍醐の花見）を催しました。上野が現在のような桜の名所としての道を歩み始めたのは江戸時代の初期。上野に寛永寺を建立した天台宗の僧、天海僧正が上野の山の景観向上のため、奈良・吉野山から山桜の苗を取り寄せて山内に植えさせたのが最初とされています。

この桜は一般にも開放されましたが、花の下での飲食禁止、鳴り物禁止、現代とは様相が全く異なったものであったようです。

その後8代将軍徳川吉宗が江戸の各地に桜を植え、花見を奨励したことで、現在に近い形の花見が庶民に広まりました。

江戸時代の末、1868年7月、旧幕府軍彰義隊と新政府軍との間で戦われた上野戦争により、寛永寺は本堂にあたる根本中堂をはじめとする主要伽藍の多くを焼失しました。その跡地は1873年に公園とされ、汽車の煤煙による公害や関東大震災、戦争など様々な困難を経つつも、地域の人々などの手によって桜は植え継がれ、現在の形にまで育成・整備されてきました。※上野動物園—上野動物園は1882（明治15）年に農商務省所管の博物館付属施設として開園しました、日本で最初の動物園です。1886（明治19）年には宮内省所管になり、1924（大正13）年には皇太子殿下（昭和天皇）のご成婚を記念して、東京市に下賜されました。